

旧後藤正治郎家住宅

Ⅱ 前沢区生母字天王 Ⅱ

県道14号の岩手県交通天王バス停そば、「旧後藤家住宅」と記された立て看板から脇道に入り、緩やかな坂道を上がった先に旧後藤正治郎家住宅はある。元禄年代（18世紀初頭）にこの地に移住した後藤家の初代が建てたと言われ、田の字型の「四間取り直屋」や土台石にすぐ柱を建てる「鹿の子造り」など、当時の仙台領農家の典型的な様式で建てられている。また、十六角形の柱や盛り土、無双窓、着場座敷、釘隠し、打ち付けの仏壇など、この家ならではの特徴的な造りも残されている。県内では、国指定の旧後藤家（江刺区）、旧菅野家（北上市）に次ぐ、まれに見る古式の民家で、民家建築史上貴重な遺構であることから、昭和60年に県の有形文化財の指定を受けた。緑の中で静かに佇む旧後藤正治郎家住宅は、江戸時代の農家の暮らしぶりを今に伝えている。

※内部の観覧を希望する場合は、事前に市教育委員会事務局歴史遺産課（江刺総合支所・内線 441）までご連絡ください

広告



1 往事の面影をそのまま残す旧後藤正治郎家住宅の佇まい。真壁造り、石場建てで桁行 20.26 m、梁間 10.53 m。屋根は寄棟、茅葺 **2** 土間から屋根裏の作りを見ることができる **3** 居間に取り付けられた無双窓。梯子状の板をスライドさせて、隙間から土間の様子を確認していた **4** 乾燥させた粘土の玉を積み重ねた盛り土 **5** 「鹿の子造り」は古式民家の特徴の一つ

